十一月十四日

銀行ニ行キテ机ノ引出ノ片付ケヲ改シノ二年振ニ中ニハ色々ノモノカ堆積シテ居テ整理ノ帰ヲ為ス正金ヨリノ外国為替ノ少シヲ出シ置キノ債権モ有ル様ニシノ研究ヲ始メ中ノ夕刻ハ山野ノカ引キノ芸者ノ坐敷ヲ賞ラノ由ニテ招カレ来リノ食事ノ又ニ京君ハ一緒ニ改シ中ヲ帰リテ行ケラシノ外出ス中ノ Neue Theater ニテ面白ノ芝居ヲ見タリノ右程ノモノニシテノ右ノ狂言ノ始キモノニ第人ノ始ノモノノ儀イハ見ヘテ余リ入リヲ為シカラズ候帰途ノ降雨ニテ閉ノ改シ中ノ雨ト雪ノ交リニテ寒サモ強ノ帰ラノ日比モ比サル御ニ入リテ床ニ就キ中候

十月十五日

今朝より此夜ノ天氣ニ比シテ殊ニ非常ノ好天氣也
銀山ニ行ル前ニ公園ヲ三十分斗リ散歩致シ大ニ
涼シ心持ノヨカリキリ内堂ニ宮ノ銀山ニテ又分ル
為者ノヲヲ研究セシタ刻ニ三原来リ今日自分ハ
此夜宿物ノ分ケニ懐中ヲ入レタル儘ニ出サリシト
見エテ金ハ一文モナキ為メニ三原カ内地ヲ見出ニテ
[illegible] ヲ三ツテ三原ノ宿ニ帰キテ内地ヲヨリ帰リ
ニリノ時也其レヲ勉強セシタ金ノ十四銭ニノ口ヒヲ
記シテ之ヲ御ニ入リ床ニ義キニス自分ノ研究ノ
ヲモ為事御ニ出ニ外ニ為者ノ為ニ斗リトナリテ
寓舎ヲヲ別ル第拾ニ内堂ニ帰郷ノ上ニ研究
ノヲカ何カニツケテ役ニ立チ而ヲ一ツハ考ヘ

十一月十六日

今日モ教室ヲ出テ銀行ニ行キテ手紙ヲ書キ申候
夕刻ニ一郎ノ二人ニテ帰リ帰途一郎ヲ絵ヲ買ヒ
由ニテ絵屋ニ行キ申シ、松ヶ上原ノ絵屋ニハ
可ナリニ品物ヲ拵ヘ置キモノ計リニテ一家事位ノモノアリ
他修ラアラウ銅板画耳也一円ハ形定ノモノ由ニテ
三枚買ヒ申シ合計ニテ三円弗ヲ申シ申ス千ヲ届キ
右申候夫レヨリ食事ヲナシ自分ノ宿ニ帰リテ銀
行内部ノ話ヲ致シ申候日モ暮ノ了ヤウ正金ノ
了ヤウ、話リ中ハ面白カリ遂ニ十二時ヲ打ツテ
右人モ寝キヲ帰リ申候

七月十七日

今日ハ又好天氣也今年ハ雨少ナリ天氣ノヨロシキハ殺生ノ仕合ハセ也一艘ニ日本ノ船ニ雨多カラズ又平常モ漁業少ナリ他家ハ引ケ何ニキフナラシモ何分ニモ業傷ノ劇変ノ凡ニリ聞ロノ到也今日ハ夕刻ハ又三家ハ一緒ニ日下傷業部ニ行キテ鳥ノ方ヲ慎ニ食ヒ下候三家ノ食ヒ物ノ東氣ハヤノ持ハ欲ロ少ハ多ノ来リ病氣ニテ日ハ八況ニテ三家モ兄氣ニ少シヤウ世話ヲ受シ少リ心配ノフナラシ

十一月十八日

新市在中ノ平井時代ヨリ親シク候夕刻ハ一度ハ来
人ニテ日代ヲ始ヒ色々ニテ極リテ食事ハ Bowl ト申候
余リ高聞ニハアラサレモ食事ノ与ヘ方ハ料理屋ノ
業内ヨリ考レハ芸者ハ余リ芸者ハ中ハ面白ク物
ノ若キ婦人カ主人ノ花ヲカシテ賣メテ大ニ主婦ノ賣ハ
始ヨリ家食ノトキハ一向着アリ其ノ日ハ土曜日ナリシ為メニ主
人ハ其人ハ仕ノ係業部ニ行キテ二時迄マテ帰ラス書君大
ニ主婦セリ主人ノ帰リノ音ヲ聞キツケテ入リ代リ外ニ逃
ケ出テタルニ主人ハ書君ノ留守ナル為メ大ニ焼餅ヲ焼ク
ハ早ク大ニ心配シ其ニテ其翌日ノ日曜ノ日
ノ日ニハ離縁迄ヲ決シテアリシテ事円満ニ落着ハ賣
ナリ之レナクハ東西何レノ邦ニモアルト見エスハ高見ハ何ン

十月十九日

今日ハ土曜日ニテ好天氣也何事モナシ用事モ一通リ片付ヒタナリコレニ氣ハ変ナレトモ今夕ハ山中方面ノ牛窪トカノ人ニ招ハセラレ夫レモナラス手候ニ夕園ヲ散歩シテ七時ニ日本信業部ニ寄リ平井氏カ正蛍ニテ長野博士モ入リ例ノ顔振レニテ例ノ地震ニテ水野又例ノ如ク大氣炎ヲ吐キ三四時頃ニ一人ノ客臺ニテ他ノ連中モ大ニ面白カリ居ル内ニ見エ例ノ明年ノ宴業園一切ノ話ニテ打切リ中候中ニ多人数ノ客ニ出テ面白カリ可笑ク時ヲ立テ人ニモ不愉快ノ感ヲ與エスドウニカ無ラヌ事ニ新雑ノ二ニ有ニ此レナフノニテ面白カリモナリ時ヲ過キトナリ大ニ閉ヒ改シ中候

十一月二十日

今日ハ日曜日ニテ十時ノ汽車ニテ京都ニ出ル：余リ寒候、天氣ハ三日ノ風ナリシ後ナニテ中ニ入リ近年ニナリ西白ナリシ所今夕ハ平井博士ニ招カレ行ノ為メニ早ク切リ上ケ帰リシニ千吉ノ患儀ナリシ帰リテ報ヲ聞ク孫ハ Holt Adam ニ余リ候細育ノ金モナク日本人ハ皆ナニテ外ニ出ルクラウフラルドトカヤノヒナオヨリノ老人招カレ行ノ人ハ小樽ト北幌ノ間ノ鉄道ヲ建築シタル人ニテモ初ノ父上ナドノフリ方ノ行ノ又出ノ紀行ノフモヨリ方リ行ノ暫ク話ヲ後シ中、候今夜ハ又演説ナドアリテ大ニ眠ヒヤウモ此夜ノ様ニハ眠ラナラス右ニ帰リ中ニハ十時過也夫レカラ帰ニ入ツテ家ニ来ル中ニ候夢ヲ見テ余リ安眠ス候　二十日朝

十一月二十一日、

昨日ノ疲レニテ疲レヲ改メ中候銀行ニ行キテ今日ハ又外国為替ノコトヲ研究改メ中候
寒冷 何レニシテモ一ケ月ノ休暇ト思ヘリ案ノ為シキフニ内閣ニ出ル八月カナダノ旅行ヲ終テ以来
帰国ノ用意ヲ改メノ間ニ元気用意ヲ出来タル筈ナレニ非ナレハ又為ニ感シ中候今日
ハ先日ヲノ夜ノ晩キ疲レニテ余リ疲労ナラズ尚
夕刻ヨリ帰リ中候食事後ハ部屋ニ
リ花ヲ活ケ活ケニ疲レテ自ラ部屋ノ山岳
ノ美ヲ楽レノ流ヲ流ヲノ楽郷里懐シリナ
リテ秋ニ白ヤカヲ感シ

十一月二十二日、

今日モ既ニ常ノ如ク天氣也コルフ；行キタキモ今日ハ平井伯ノ帰郷出発ノ日ニテ見送ラザルヲ得ズ銀山ニ行キテ三時半ニ平井君ヲ伴ナヒ；送ラ夫レヨリ洋服屋ニ行キテ先ニ作リシ洋服ノ取直シヲサセ候夫レヨリ呉服ニ行キテ帯続ヲ改サセ候続ハ一枚二帯半隠分ニテ値段ニ円半ノ帰リテ今日ハ日本倶楽部ニ昼食ヲ喰ヒ一寸ノ三京ニ思ヒヤリ三京モ病人ノ為ノ半年地ニ帰在所ノ家経国ノ為ニ帰レハ八時半也夫レヨリ清出改シ申候清出モ已ニ一厨キ中ノ所レ二年目都ヤ；ちうれノ時期アリシノ方ハ喜ブ也

十一月二十三日

新吉井君ノ帰京ノ日ナルモ電信ナキ為ソノ通ヒニテ来ラズ紀州ニ行キテ書ノ日本食ノ昼食アリシ故ノ来ラノ Lowes Club ニ来リ食ヒモノ西洋人毎七八人ニテ食事情ハ食ノ種類ノ多様アリテ面白カリシ日本ノ社会業者ノ者徒秋川ニ来ル人社会業者ノ日情ヒモノアリテ神印刷物ナド廻レテ日本政府ノ書ノ来ノ午後吉井君来リ夕刻ハ吉井君ト食事シテ途中別レテ帰リ来ル帰シ方ナリ

七月二十四日、

今日ハサンクス・ギービングデイニ付休日ニ
吉井君ハ芋ニ新井君ノ宅ニ招カレテ九ツ半時
ノ降車ニテ細育出発第一ノ中ハ
ロキノ自動車ニテ色部ノ桑畑ニ候後帰宅
十九田舎ノ方ニ宮ニハ地主ノ石塔料理
地蔵様ノ国葬ニテ美シク候夕食モ地
主ノ方ニ呼ハレ帰宅ニテ細育ニ帰リ候
新井モ芋ノ田舎ニ住ヒテモ小供ハ二人トモ成
長シテ立派ニ成リテ以テ寂シカリキ
冬ハ如何ニ細育ニ家ヲ借リテ住ヒノ由ニテ人形
小供ノ多キニ一時リ驚キ申シ上ケ年老イテハ
小供程願ハナキモノニテ候ハ芋ニ候

十一月二十五日

飛行ハ陸ヲ雨降ル也又六十日也此七日ハ
紐育ニハ珍シキ事ニ内閣ノ解散ニ行キ吉井
君ト共ニ吉井君ノ旅宿ノ隣ノ横ノ為メニ
Bank ガ Commerce ニ行キ又野村ノ所ニ行キ吉井
君ノ姪子ノ男ヒ2行キ食事後ノ天気モ
晴レ本候夕刻ハ帝国ノ重モナル人ニ吉井君
ト一緒ニ招ヲレ夫ノ御ノ水野ノ所ニ夜
晩ヲ過シ帰ラシリ一時ヲ過シ夜深シハ安ク
閉口ノ到リ也野村ハ拓殖ノ為メニ二十名ヲ
再ヒ帰リ戸候去月ノ末ニ日本ニ到着ノ
内地ノ考ヘハ一二ヶ月所在ヲ知ラズ
モ日本ノ性質ヲ知ル為ニ

十月二十六日

今日ハ朝ヨリ暫ク清書シテ一寸散歩ス吉井君伺フ陳イテ所所電信ヲ打ち改レドモ
云シリ下所ニ伺ヒ御郷紙出ニ月一枚ニ帰京セヨトノ命
令ニ付吉井君ノ方ニ会ハセ所系多分好リナルハ
第ニ所ニ於テ定ニ山ノ大ニ好都合ニ付
十一時過ギニ吉井君ト彩事ノ宅ニ食事ヲ置キ
系ヲ夫レニシツ切モ一年間ニ系ヲ出ル計リ
徐ヲ示サレ五六十数ヲ一数ノ平均ニ付ハ二等乗位
ノモノヲ百第乗ル計リ御位ハ中ノ方ノ
中伴ニ至テ系ヲ夕刻ニ吉井君ト食事シテ
九時ニ別レ帰リヤ吉井君ハ夕 [illegible] ニ系ル
フニ付

拝啓 本庁ヨリ英国経由帰朝ノ電報ニ接シ、向本月二十四日横浜出帆ニテ
ボルチック号ニテ英国ニ向ケ出帆致シ候
倫敦ニテ本年一月一日ニ到着ノ筈ニ付
倫敦ニテ一月一杯滞在ニ付 貴方ヨリ英国ヲ出
発巴里伯林ヲ経テシベリヤ鉄道ニ
テ二月二十日過キニ東京ニ到着ノ、二
月二十日過ギニハ東京 御裁ノ為人会ニテ
是非トモ到着致ス日取リテ帰ラントス
為シ居ル右御内案ニ付
右ノ内案ニ付 貴方ヨリ出発前ニ書状
ハ英国倫敦迄発送致シ置ク

字四ツ半英国ノ間ニ一通ヲ
使ヲ十七日間ニテ到着シ
二回ツヽタケ出ス事
帰国ノ上達ニ英国ニテ買求ソ
内自ノ注文ノ分ニ内ハ城有ラ
丈ケノ鉄ガアルヤ否ヤ
ケシテ内見ウレナサイ
買ヒ可ハ遠国ナリ内ハ城有ラ

穴

十月二十七日

今日ハ日曜日ニテ学校ハ休ミ

ナレバ遠ヒタキトノナリシ故早ク時ハ Holi ニ急ク

出シテ出ル小生ノ大家族ヲ吐キテ道ノ四時間シヤベリ

続ケテ二時出ル二百名ヲ改シ夫レヲ自動車

ニテ今ハ新ニ開キシ ヘンシルバニヤ 鉄道ノ中央停

車場ヲ見物ノ為メ小生ノ伴ヒ切ノ強ハ世界ノ

一ニシテ二億弗ヲ費シタリトノコト也伴者ハ可イ

大ニ驚キ入リ夫レヲ公園ヲ車ニテ一巡リテ日本倶

楽部ニ帰キ今夜ハ一杯ノ日地主ノ出テ来リ御

ノ顔相ノ分ル程山ノ如ク二六新聞ノ新聞ヲ誇ハ

中々ニ面白ク道ノ夜ノ十二時ナリテ閉散改シ

世ニノ業業ノ多キカ也

十一月二十八日、

新銀行ニ新ル気ニ吉井君帰リ来リ今日ハ終日ハモ
銀行ノ用事ニテ忙ハしク暮シ申候吉井君草部
旅行ノ形状ハモ昨夕刻ノ一番ノ宅ノ由地ニ
ニ着ノ由地ニリ方食ニ料理屋ノ手ニテ思リシ
モノ多ク物ノ珍味ナラズ候食情ニ例ノ閑暮ノ故
シ申候方彼初ニ由ニ帰ラシリナシ叶也

十月二十九日、

今日ハ雨天ニテ涼シク面白カラサル天氣ナレトモ夕刻ニハ吉井氏カ西地主氏ノ由ニテ帝国ノ金モナキ人ヲ Sherry ニ招キ下シ、会スルモノ主客合シテ十五人也、水野、高峯、伊藤氏等ノ、岩本、秋山ノ以上三人ハ欲ナキ帰邦ノ途上ニアル人ノ餞別ニシテ水野カ酒ニ飲ツテ、クダヲ巻キ下候歌カ出ツルヤウノ岩本博士ノヲドリ、モ見ル人ノ酒ニ酔ヘバ多少ハ変リ、ノ様ニ見受ケ下候夜ハ遅クマデ、ドモ中々ニ止マズ遂ニ十二時ヲ聲ヲ独キテ御リニ腸ヲ上ケテ帰リ下候岩本トヤ、俗悪ナ博士アリ秋山トヤ、似テ飛ナル憐憫家アリテ世ノ間ノ談論ハ実ニ奇々妙々ニシテ面白ヤウ可笑ヒヤウ止来ニナキ出来事ニ西望ス

十一月三十日

朝七時ニ起キテ食事ノ終モナリ発出シテ吉井君ヲ見送リ申候船ノ出帆ハ船ノ出帆也船ノモレタニヤトハ
第弟ノ既往船ノ事ノ方船ニシテデツキカ五楷ニシテ降様モ二ツアリ汝ニ美事ノモノニハ四ツノ吉井君ノ
部屋ノ風呂ノ付キノ廣キモノニテ第貨四百五拾弗也
陸ノ方ハ体裁ニハ四ツノ刻ノ又幸幸ニハ乗候
当部ニ招カレテ第ノ客ノ皆同レキ歓接レニテ
今夜ノ食後谷本ト秋山ノ大洲論ヲ始ユリ出レニ
京都ノ方蕃ノ原田ト云フ校長兼立教明モ加ハリ
中ノ方ノ盃ニシテ何時果ツルヤキ平ニ一足モ付カス
閉ノ方ニ出ル迄ニ十二時モ打チノ向ニ二十三日一日トナリシ
故ニ臣敬モ中ノ夢後ニシテ働クノ敬シヤ候

十二月一日

今日ハ銀行ニ行キテ元しやうゝ寺ニ頼リノ用事ヲ改ム様ニ
修備ヲ改シ下候官人ノ外明日ノ様ニ平常ハ怠業
拙ク故ニ伝ヲ出ニトナシハ可ナラズ忙シリ候豆ヲ京都ノ高
島屋ノ奉公人来リソキシコ博覧会ニ来ラル由ヲ申ス外ハ利
巧ノ書面ニ出ル夕刻ハ強雨ト迄自ラ入ニテ食事ヲ
改ムテ中金ノ料理屋ニテ食事ヲ改シ帰途自分ノ
宿ニ来リテ散策ヲ改シヤリ右人ハモ自分ノ帰郷ハ
何ナルヤニ発ヲ飛常ナル疑問ニテ或ハ再学業ヲ
モシト又ハ御郡ニ行ントモシタカモ種々ノ上電来ル
由ニテ夜十一時ニ成ル迄ニ帰リ下ル由段ニハナルベシト
拙ク外ル由ニテ中ヲ世人ノ評ヲ当ラサルモノリ又炊ケヤ
モノリ

十二月二日

銀行ニ新シク北野銀行事ノ下ノ娘ヲ四十歳ノ娘ニ入院セシメノ病院ノ厨ヨリ大サワギヲナス由尤モノコトニ病案ヲチブスカ又ハ腎臓病ナラントノコト山崎ノ身ニ他人ノ身ノ上ハ思ハレズ候夕刻ハ日本信業部ノトラストノ会ヲ新宮ニ至ル十八計何ニモヲ何ノ為ニ面白ク一日実ニクタビレタリ十時近ニナリ上ケ申候之ノ会ハ日本信業部ノ出資者ノ会也後ニ聞ク日本信業部ノ横領ニ有之家ヲ大ニシ出ヲ傷ハシタリ評議ノ決シテ金ヲ大ニ国印ノコト也夜ノ帰リテ彩財強出シ人ノ之ノ日記ヲ書キツヲ考レカラ断ル所ニ就キスル

十二月三日

土曜日也 銀行ニ行キテ高島氏ノ人ト二人ナガラ午餐ニ招キタル Sassine トカヤノ下町ノ料理屋ニテ食事ヲ終シ後ハ食事ヲ終シ共ニ帰リ[illegible]帰宅シテ暫クシテ Hotel Plaza ノ伊藤氏ノ招キニ応ジ[illegible]ヲ十人計リニテ食後色々ノ話ヲシテ居ルノ者ドモトカヤノ博士ノ骨相ヲ見ル由ニテ自分ノ骨相ハ銀行家ニ大変教授ノ方ニ為ルトノコト家業ニトカヤモノリ顔ニ第一年レキ変カ動クルモノナリ文部ノ厳格トカノ断定ノ宝クジモ大ニ待機ノコトナリ又各人ノ藝色ニテ出テ自分ハ兵隊ノ第一年ニシテ遠ニ山ノ赤ノヨ出ル様全ク大ニ迷惑ニ思ヒ帰リマシタラバ久シ振ニ呼カセルノヨ、実ノ所カラズ

諦独ラ所ニ

十二月四日

今日は日曜日ニテ家内家族一同ハ在人ニテコルフ
ニ参り候風ナケレトモ非常ニ寒キ日ニテ
自然ハ出来ルモ中々ニ冷テ指ハ皆ヒビエ中ニ豆ノ
二叶ニ食シタ刻少シ早ク切上ケテ帰リ申候ヒニ
ハ地ハ皆凍シテ石ヲ打ツトキニ地ヲ打ツハ九ノ
石ヲ打ツ様ニ有ル夕刻宿ニ帰リテ少シクシテハ
東倉ノ吹ノ為メニ日本倶楽部ニ行キ申候変
水野モ来リ夫ヲ有人モ多ク雑談ヲシ後ニ
国葬ヲシテ帰リ申候此ノ頃ハ寒カ非常ニ下手
ニ成リ指ニ跡シヤ面白クナイカラナシ二シナ
ツモ多忙ノ中ニ閑ヲ作リテ速ニアラサレハ
ウノ来リ来ラン事

十二月五日、

今日は朝から行きたい所へ行って来る筈で、独り残って皆を待
合せ食事人の大騒ぎの様子何もかも一時に来たので
忙しいと云ふ事で、蛮人の大騒ぎ、蛮人の保護者が来て銘々
の部屋の方へ出て、食事を済した夜は島の
宿に泊まる由で又伊藤長官の出発の日は云ふまでも
一寸 Plaza Hotel に寄ると云ふ時は島来て食
事の時地震で皆の窓が変な降雪で一歩
も外出られず変な所に宿で食事をして夜
クラブ舞踊所に居候、島を出て余程候業
を積まで居ると一寸も此夜は船中の雪
が積もるなら明日の雪又雪が雪で難儀
なり ナカラン云

十二月六日、

新見より川市ノ降雪ニハ雪ニ積テ五寸余
ニアリシカ金カレ、降リツヽアリ一日絶ヘシテ休ムヿヲ
ヲ考ヘシモ為ルカキテ山ノ中ニアリテ之レモナラズ第ニ
細雨ニテ雪ヲ積シリスベツテ一歩モ歩カレスシテ況
靴ノ上ニ日本ニモ高ク五ツ一コノ靴ヲハメタ候
去ルレイ靴モ又レズ又スベリモセス都合ヲ以テ
内ニ少代ノ為ヘリキニモ靴ノ上ニハメルゴム靴ヲ
買ヒ供エシタルニ足カ又レス風モ引リテ少ナカレシト
ヲ内候夕刻ニ日本信業部ニ到キテ日本食
ヲ食ヒ内ニ日本ニ帰ル前ニナリテ部ヲ日本食
カ嘗ヒシリ方ヲ教ヘ内候

十一月七日

今日は郡山へ行キたく中々ニ寒強シ夕刻ハ
弥兵ト色々カ話ヲ合ヲ居キ居ルノトカニテ若松ヘ
行ノ約束ヲ四時ニ水野来リノ間ヲ迎ヒニ来
候ニ乗リテ水野ノ姉ノ兄家ニ寄リ賢徳寺トカ
ニテ宇惣ヲ家ヲ取リテ山代ハ大サワキニテ私ニ寒也
二十分ヲシテ部屋ニ入リ食ス接待ヲ合ヒ中ノ酒ト
可懐ノ事ニ四時ヲ過レヲ若松屋ニ寄候芝ニテ
西村ヲ中ノ人ノ書籍ニ行ヲ世ヲシ西村ハ三井ノ人ノ
娘ニテ入婿トノ事ニテ書籍ノ方カ余程エラソウ也
十時ヲ過ヲ雑談ヲシテ帰リ中候帰ツテカラ清出
改シ中候清出ヲ元ニ戻ハ外出ヲ者ノ事ヲ
ニテ余リ面白カラズ候

十一月八日

当主ノ日ハ朝ハ迫リテ甚タハ忙ハしク夫ヨリ保モ西洋ニテ夕暮晩ノ夜ハ家全ナドアリテ宜ハ来客多リ故ニ以テ閉口ノ到リ也前ハ正全ハ別ニ美ノ美ノ人ニテ一度君ニ帰リテ又ハ古修業部ニ系リテ何ニ居リテ何ノ為ノ帰ハ常見慣レタル新ヤリニテ面白カリモ可笑シリモテ故ニ愚ノ極也保レ立レモ世ノ次理ハ此事也合修ハ正全ハ別ノ所ノ話ヒヤリニテ合修ノ話ハ果外面白カリ中ノ中ノ今大久保ハヤノ正全ハ見俳動ニリ為リ芸者ニ帰ハ中ニ所有ハ、所ノ士ニテ大ハ保利通ヒノ秀子ニテ故ニスナラタル君来ル迷ヒ事ニ年ニ中ノ先年山本ニテ婚姻ハ子ニセヒトテ交歩セシ人也

十一月九日

今日は銀山へ行きて大に多忙に暮れ十一夕刻は暮れの中向が迄ゆくに不本意の由にて食事は鳥ノスキ焼きにて七人にて呑方喰きに日暮て食後にすぐ始め、家戸に敵れ中に出の方の人には自分の昔が多にて常に敵と成て敵に成て始めて戸に也に敵を敗して行る美事に金敗に成り中候今日り賞品をアリタルトも中々賞品多にアラズ候天下の諸好者敵の多は孫に棟微の間に有ラザル年にカラズ候人向り殺伐の勢に集ル迄なりも出来又は常に出敗に昔と一出り終ルアルカキ字彈薬に運拙鈍トテアリ戸に運カヨキに、戸に根葉ヲ危キに戸に、馬鹿の風なるに

十月十日

郵便ニ帰ル途ニ[illegible]ヤ候 勧工場ニ立寄リ
裏町ノ横キ路モクリクリノ男和ノ人ニテ一杯ニ
テ自動キモナラズ苦雑ニ水野ノ娘ニリボンヲ人
形ノ男ヒ男フル結ヲ手ニ持候ニ付見モ持リテ休
リノフニ男和ヲ改シ中候 出シヲ又々伝者和ノ
ヤト同業ヲ改シ又大出改ヲ改シ候 心苦ニアラサ
レリ凡レトモ凡エスヤフヲ帰郷前ニテ帰郷後ノ
フナトニ考ヘ居事出シ方ニ当ヲ所ニ考ヘ
未タ益ナリ少シモ片付ケズ事放シ出シ居リ
又土産和ヲ美面ニ切リ分リテ凡ヲ中止改シ中候
男自ラ何モ買リヒヤトニ考ヘ居中思ヒキリモトアラハ
中戦有ラン

十二月十一日

日曜日ナレトモ紀寿ノ結婚ニテ外出セサル可カラサルニ付午前ハ金ノ勘定ニ時ヲ費ヤシ午後二時ヨリ大倉氏ノ文部長来リテ大倉孫ハ高等商業学校ノ生徒ニ対シ門野重九郎ノ祝辞アリ夫カ済ンテ人力ニ乗リ高ノ方ノ又夕刻ニハ多賀氏カ来リ夕刻ハ義金トシテ四十円ヲ呉候ノ叮嚀ナル依頼ト共ニ内閣書記官ノ技師来来ル三月事ノ約束アリ来リ夜ニ入リ野村夫婦ヲ迎ヒ一緒ニ夜食ヲ共ニシ夫婦ハ九時ニ帰リ客人ハ十時ニ帰リ夜食ハ鶴ヤ始メ迎ヒニハ後藤ハ十時ニ帰リ来ラサリシ故迎ヒ一時ニ帰ル寒冷殊ニ強シ

十二月十二日

今日ハ昨日ノ降雪ニテ殺風ノ積リ方ニテ強カ開
ロノ到リ也又ニ寒モ中々ニ強キヤウニ思ヒタ
刻ハ常ニ在宅ノ日ニハ人自分ノ為メニ為ニ為ル
レノ由ニテ Lady Club ニ参ラウ会ニモノナハ人中ハ
今也自分ノ在宅ハ日ニハ人ノ為メニ為ニ為ル
稽古ヲ銀ノ花瓶ノ大ナモノヲ買フモ為ル
陪レ中ハ候ナ人ニテ寒流ヤウ又歌ヤウ、詩吟
ヤウアリテ大ニ賑ハヒ中ハ候 Lady Club ノ常ニ有ル
Club ニシテ美術ニカ会員ニ多キ為メニ油絵ハ
教師ニ与ヘ一きモノ多ク焼ケ和陪レ中ハ候帰
リシリ一時迄ヤウ思ヒ出ニ銀器ノ中ハ入事
ノモノニ内緒ニ紀念ノシヤウ欲ク好塩ノモノ也

十二月十三日

銀行ニ行キテ一切ノ片付ケモノヲ除シ候後ニ焼サキ又
厨ナドニ用ヒタル荷物ノ少シモ手ニ付キ不申又
永地ヲ溜山ニ出カヘシヲ終ヲ山ノ如クナリテ更ニ運ビ
不申ノ為ニ到リテ船車ノ方様カラ帰リシ後
ノ忙シサヲ方ヲシノバル玉デリ来法家ノナキ丈ケ
船常ノ仕合ニ内ヒタ刻ノ御会ノ演説アル
由ニテ古々係ノ士義ノ為人ヲ待ツテ集ル合至ニ合
事ヲ見ハ人家ニテ船者ノ人ニシテ見ル演説モ
中々多クシテ面白カリ内ヒナ時迄キテ帰リ中
外出ニテ会合ニ行クト帰来ル中ニ帰リ
ノ船者ノ半ニ成リ事ヲ入ル寄来ノ
内ヒ

十二月十四日

今日も朝から行キ又片付ケモノヲ改レノ今日ニテ大概
片付キ申候明日ヲハ元旦ニ廻ル可ク候夕刻ハ
知人ノ待人牧野ハカ人ヲ呼書改形ノ言葉ノ書
ノ裝飾ヲ見ニ行キノ裏ノ部ハ都ハ常リ前ノ西洋
式ニテ内部ハ全部日本風ニ作形ノ天窓ハ合天
窓ニテ空洞ノ鳳凰堂ヲ形取リ其モノニテ壁ハ
全部金屏風ハシ柱ノ如キモ皆日本式ニ取成セル
木ニテ造ルフ方外ノ形ノ古来ヲ上ハ伊吉書ノ評
判ハ大外ノ了度合ニ日常ノ所レ余リテカテカシ
過キテ平常ノ住ヒ方ニハ如何ニ可キ歟夕刻ハ
牧野ハ友人ニテ各事ノ為ノ集テ連繋ノ祝ヲシテ
帰ル申候

十二月十五日

銀山ニ行キ掛ケテ姫路ニ寄リ三井、新井、ニ寄ル
ニ行キ本候所ニ帰リテ食事ヲシテ今日ノ所ノ
約束ヲ済ス一人ニテ部屋ニ引籠リテ為ル事ナシ
ホツ伊仏ケ姫メー二十四日ニ成ツテ来ル筈ニ
筆墨ニ引キテ二日ヨリ帰在ス帰リテ左ニ
法英ニマス英国ニ一ケ月市来帰在シマス日ヲ許セバ
甲斐保ヲ経テ帰リマスサイベツヤテ帰ツテ使ヲ
寄ス一昨日ニ成ツテ帰レリ大丈夫也然ル三月八日ニ
神戸ヲ到着シマス云ヒ書ヲ送ル

ね　昼は八三四号ハ多忙ニテ到底日記ヲ記ス
ノ暇ナシ　昨夜ハ六号ヲ出ス　十九日ニ
ワニシテ行キ方義省ニテ方義決定ス　昼ハ
七ツニテ一時ニ出発　利根川ヲ渡レ
ニ先生ノ自動車ヲ貸シ呉レ　呉ニ
集ル市内ヲ加賀屋ノ候　夜ハ大使ニ招
待セラレ　日本食ノ出地ニ　ホテル二十
百ノ夕刻ニ帰市　作ノ三十五ハ影像
ノ始末ノ為メニ　ホテルニ行キ　候時ハ
物ヲ生ル　二十四日　十二時ニ強出帆
出発ノ予定ニ　ニシテ　呉ニ来ル　尾邦ノ
為ニ　味ニ　歩　臥サレ　ホテル　内務ノ方

12/22

正一金持ツテ来ル筈ニ鎌倉ニ居
タノデ私ガ居シノ留守ヲ二ケ月ノ間ニ
帰リマスカラ帰リマシタラ、ドンナニデモ、何抱ヘシテ上
ケマスカラ、貴シマデ病気ヲセヌ様ニシテ、イラッ
シヤイヨ、明日ハ十時ニ船ニ乗ッテ
横浜ニマスカラ、美玉ニハ廿四日ニ出船ニ
用来マスカラ出リマスカラ出ル出ル何カ買ッテ行キマスカラ、
何カイイノカ、意地ナシマシタッテ出ル見ナサイヨ、
美玉ヲ出ルト出ルノニ私ガ留守デスカラ、

千代子

第五ニモ二年間居ると雖も面白からず不愉快極
まる同日の夢と云へもの今月考へると如何にも情
日と云へば殆ど陸にとり利益なせば信也所に立ち
將来ノフラ考フルトキハ此上ノ幸福ト此上ノ愉快

アリ此ノ上ハ腕一杯ニ働ヒテ人間一生ノ仕事ヲ為シ遂ケシトモ也人間ニ行住坐臥総テ修羅ノフナキハ只々寸寸ニ充チタル程仕快ノフハナキ也第事ハ帰京ノ上ヲ好ケ方法シ自分ノ考ヲ述ブ可シ保シ如ノ夫ノ頭ハ明晰ニシテ腕ハ敏活ナリ好来リ洋々トシテ海ノ如シトモ

フフ迄ケハ常ハ信シテ信事セラレヨ、

十月二十三日夜十二時

伊藤博文拝

千代子様

十二月二十四日

新年ニ曇天ニシテ殊寒ノ時カラ弥生ニ成年一月十日ノ
日記ヲ出ス之ハ日ハ昨也新年ニ於ケル諸役者
ノ為メニ来リシ時ノ陸軍省ノ三人ニテ自動車
ニテ伊地知62ノ家ニ行ク Bolte 号ニ乗ル部屋ハ
殊寒ノ為リ模様ニ先年殊ニ成セル部屋ノ様ニ
上ル風呂場ヲ使ヒ伊藤ノ於人ハ
弥生ノ時見タ為メニ年ノ如ク十二時ニ出発
シ城山ノ風ナキモ何ニ寒ク下ル西日カラ
食後ノ物ノナカリシモ夕刻ニハ風ト共ニ
雪ニ変リ来事ノ如ク降ル中ニ西事ノ
出ヲ食出ノ中ニ家ノ為ニ撮シ食ル西ノ
品ヲ部屋ニ過キ寒ク新キ中ノ

十二月二十七日

今日ノ義務ノ事ノ如クニ多クノ時ニ碎ケ心ナラズ。一日都合ニ就テ試験ノ為ニ多クノ事ヲ為ス毎ニ多少悲ノ辭ニ堪ヘザル事ノ如クニ思ハルレドモ苦シキモノニ出ツ一日面白カラズ過キヌレバ中ニ多クノ面白カラサレリ面白カラサル丈ケ面白カラズ即チ多クノ時ノ方ニ於テ此ノ時ノ方ニ於テ此ノ時ノ方面ノ解ノ如キモノニ出ツ此ノ如キ比ノ解ノ事ノ如キニ出ツ之ノ事ノ裏ニ於テ思ハルル多キ為メナリ又先キノ先キニ於テ此ノ如キ事ヲ為シテ初メ悲ノ時ナラズ但シ赤ニ中ニテ楽シキノミ少ク上ニ横ハルナリ一日長キ日ヲ楽シ但食事ノミ楽ナリ都合ニ多シ

十二月二十六日

今朝ハ雪ヲ見ルモヨリ天氣モ時候也ト云フ可シ

テ新ノ食堂ニモ明キ食事後ハ甲板ノ上ノ運動

ニ多クノ時間ヲ費シ申候平穏ノ上ニ食物ヲ

二番ノ鶏ハ時々時々ハ我モノト雲ヲ雲キ云フ様ニ

ナリ海ヲ見ル毎日ハ言フ事ヲ知リ終ハ

雲ハ雲ヲ云フ所ニ雲モナリ石炭地也茶ヲ雲ヘ

レ来ル [illegible] ハ中ノ間ヲ張ル一人ノ盧茶心ノ

強キ人ノ歴史ニテ茶ヲ人ノ性質ヲ知リ易シ名モノ

ニテ降雨ノ上ハ行シ可申候手帳ハ少シ暗カラ

ニテ書ク事ノ候手帳ハ一切日ヲ止リ運動場ニ申候

夜ハ早ク寝ル義ニ申候ノ時ニ年ノ年ノ義ノマギレ

終ル

十二月二十七日

今日ハ朝ヨリ晴快日ヲ見候午後ニ為変シテ雨降
深ク夕刻ニハ雨トナリ宮城ノ工合ヨリ去年ノ状況
少年ノ大平洋経過ハ実ニ異ナル感ヲ催候朝ハ
今後ノ如何ノ如ク書キ本ノ日本ニテハ自分ノ風評
切ニ盛ナリト信シ本候ヲ如ク者人ニ出ル大
ナル注意ヲ要シ本ノ写ヲ本ヲ直ク自分ノ所新
ノ上ニハ不遠注シテ直信ヲ忘ル可キモ目下自分ノ
情況ヨリ申ツリ所新ノ上ニ方ニ注意ガ可ク出ノ方面
ナリシハ千代カシカ呼タリ大ニ表ハナラレト信シ本ノ

十二月二十八日、

已ニ元寇ノ去リシ上来元世祖ノ命ニヨリ使ヲ遣ハシト運動ヲ
シ居タナキ内第四ノ第五ノ經過失ヲ責ミ去ル
所ノ要求ニテ使ヲ送ハシタル後ヲ待ツ内ニ使ヲ
ハヨリ記載セラルル日ナラン今ヲ考ヘルトシベリヤ鐵道
ニテ敵撃ヲ動ク者ノ考ヘ隆吉カ手鳳カ臣ノ為ノ
来ルナラン中ノ帰リノ為何ンナル中帰ル日ハ為何ン等ノ
男ヲシテ軍教ヲ運動シナカラ考ヘ候若シ島カ来
ルナラハ是雄ヲ一緒ニ出遣ラシタシ是雄ナラハ敵撃ヲ
第ラレノナラン陸ン中ハ大歳ノ為何ンカ切ナ邪魔シ
ナルナランカト種々考ヘシ

十二月五十日

今日ハ上天氣也先ツ各ノ部隊ハ上等ノ方也明年ノ方ニ保ケ今年ノ大西洋先ツ幸福ナル年和ノ部隊也日ノ出ノ前ノ一日ノ殘ス年ナモ為ムツモナ

ツ平穏也夕刻ハ Saussa ハ三ツ人ノ青果隊ノ妻ハ果アリテ從ハ七十五人アリテ各其ノ名ハ果器ニテ吹キ

ヲ上ケハキハ実ノ如青ナリ之レリ米西ノ Gal ニシテ英国ノ傳ハ多ニ少ナ或ハ日本ニモ来ルハノ者ニアラザル候今

日ノ西保ノ時時裏ヲ進ヒ二度ノ敗シ少ク錯者ヲ為シテ有シ候全ク米西ノ物来ル者和ヲ

後ヒ下ノ所ハ米西ノ閉ル大砲ヲ改ヒ

所ノ市ニテ者ニナリテ多ク有リ候方ナシ

十二月三十一日

今日ハ少々宵ノ内雨降候ノ日也午後一時ニハ已ニ霽出ノ幸請を見エ申候盆後ハ斬髪ノ改シ申候又一美人ノ七十オトヤ人ト無言ニ立ち申ハ面白ク話ノ改シ申候今日ハ陽気温和ヒヨク改シ申候所ノ近ク行アリシ

ノ両岸ノ美ク近ク市ハ数家色ノ家を有ノ時女子

幼ニ口西ノ Queensland トヤノ家ニ一寸碇泊ス之ニ郵便物ヲ

上ケ為メ也倫敦ニ早ク切カヘトモ人ノ苦ニエ陸シテ

馬車ニテ切キ二十分計リ三ツ又ニ出ル大海ノ

ナ丁目也此市ノ人ハ五ニ新年ヲ迎ルノ

出ケテ各部屋ノ引花ル位ノ也明日ノ午時ニ

上陸出ル倫敦ノ市ハ明日ニハ年ノ到着

四十四年一月一日

朝起キタルトキニハ船ハ已ニ進ミシテ両岸ニ陸ヲ見ル也
朝食ヲ共ニ終ル心付ケテ喫ハ申候船ハ十一時ニハ
マニラノ河口ニ入リ十一時半ニハ Laiebak ノ港ニ碇泊シ
甲板ニテ見物ス夏日本人ラシキモノヤリ取ヲ近付キタルニ
乗池ナシ石時ノ二三汽ニ乗リ感シ大ナル事実
ノ世界ニテ関モ倫ニ始メノ陸車ニテ倫敦ニ来テ
ヲ時ニ動搖シ伊太利ニ行キ切ニ吉井川野ヲ日本領事
ヲ訪ヒ越ノ正金ヲ見及吉之君迎ニ来リ共
ニ Queen Anne Mansion ヤ ノ右ニ小キ丘ニ建ル時休憩ノ後
吉井ニ招待カレテ日本ノ料理ヲ食シ雑談夕暮ニ帰リ
ゴマメ等ノ肴ニ雑煮ヲ煮ル鮮モ有ル夜十一時ニ床ニ
入リテ寝キシモ食過キテ少シ眠リ難カリシ

一月二日 晴

一月二日

今朝ハ余リヨリ睡ラレザリシ為メ、早起ナリ改シヤウ、
愛倉悟ニ日下義雄氏同シ Hotel ニ止宿ス、由ニテ
伊向ヒシノ小野君モ直チ来リ四人シテ市ニ行キ
正金ノ途中ヤウヤク銀行ノ一部ヲ面倉ノ伊藤ハ
呉ヨリ何ニテ帰ル筈ナリ金クノ十二年前ノ直
リ也夕刻ハ水町氏ト一杯ヤレテ昨夜ノ日ヲ祝ス
ルニ四キリ明夜ハ喰過キタル故ニ今夜ハ小ヒリ意
愛ヨリ振出シ居ル正金ヨリ呉ノ口ヲ呉ヘ方先者
ノ人ニテ三十人計リノ大拿ヲ倉悟ニ田舞ヲナシテ
大勝利ヲ以テ帰リ申候、ロレドモノ伊藤ハ呉ヨリテ
動ル愛ヲ下ブ耳ニテ部屋ヲ閉ロノ到也
帰リマシタノハ十二時頃也

一月三日

新吉井君ハ昨ニ加賀大使ヲ訪問セラレ帰時ニ
ナリ雑談ヲシテ帰リ来候、出テテ外ニ出ルヤウ
ナリ新事新ニ出キ京都ヲ訪問シテ直
ニ長崎ニ行ク様ニ思ハレキ堂宮石ニ行キテ
一生一大ノ奇蹟ヲシテ神ノ指環二ツ、時計ノ
鎖リヲ買ヒ来候之レハ誰ノテツカヲ之レヲ確カニ後
シタトキノ証カノ新カ目ノ前ニ見ル様ニ思ハレ
夜ハ吉井君ノ宿ニテ小野君ト一結シ地主ハ
当成リ来候石ハ小サケレトモ俗歌ニ一二ヲ第
ニ石ニ成ル心持ノ三ナ都合也非常ノ地主
アリテ夜ナ時ハ帰ラ後ンヒ、ノ空キ
ニ言ハ言ハ絶ヘタル心地也

一月廿四日

今朝ハ独リニテ船ニ行キ申候小松ヶ原迄
ヲ乗ル日本ニテ自分ノフラ付キ喧ヲ
要シカラサル喧ナレハ何ニテモ乗ニ相成ラス不及ト
今日ハ保姫ニ行キテ夏ノフロウク、ヤ、更動銀
ヤ、ビリヤ米玉ヲ金ク半値ニ買ヒ自分ハ二十日
ヨリアイルランドニ吉井君ト旅行シ二月ノ二十之
日ハ帰ラリ日本ニ帰宅可致ト相岸ヲ保尚
ヨシタルニ人ハ保岸ニ二三日保養ノ為メ少キ
乳母ニテ四金セヲ夕刻ハ小野君ト独立ニ
ヤ、ヤ、ノ料理ニ有名ナル家ニ行キ帰途
ハ吉井、為ニ之ノ四人ニテ芝居ニ行キシモ金ク
ヤ、好シカリシ自分ハ一人帰リ申候

一月五日

今朝ハ寒霞ヲシテ九時半ニ食事ヲシテ戸ハ
十二年前ニ自分ノ所ニヨリ北ノ名ハ銀行
ニ行キ四人ノ方人ヲ伴ヒ名ハ皆大ニ歓迎致シ居
レテ居レリ面白ク半日ヲ費ヤシ中俱宣食ニ
若干を来リテ一緒ニヨリ中夫レヨリ書籍屋ニ行キ
テ支那ニ関シ書籍ヲ集メタリ夕刻ニ所地
是所ハ田山野ノ日本ヨリ来リタ食ヲ地
方シテ夜十一時半ヨリ種々ノ話シ今帰リ
マシタ夫レカラ土産モノヲ考ヘ中多クリコモリ
傘ニ改ムルハ未だ毛利ノ高ノ土産モノニ
始ノ例ヲ挙シテ千代サシテ好ク毛皮ノ礫巻
ヲ買ヒ来リ候

一月六日

今日モ雨天ニテ殆ト毎日雨天ニテ米玉ハ比ベテ米ノ上ハ非常ノ善ニテ米玉ハ穴ノ時々ニ蓋シケレドモ時快ナル日多ク雨又少ナシ米玉ハ冬ニシカラズ夏暑カラザレドモ冬ハ農閑ニ霧ハシ霧ハシ雨多ク日ヲ見ルヲ少ナシ今日ハ夕刻ハ又水野町サレテ拙カレヲ到ル While Wall Court ハ十一月ノ分ノ出君改ヲノ変ハ物ガ異ナラザル君ニ閉シ都邑ハ大キリ給仕モ一人ヲ居ノモノ付居改ヲノ内地ニハ物ガノハナケレトモ安ケレモノハ高人年ニ米ヲ買ヒ面白カリ一夜ヲ美シ帰リシリナニ時ニキニ帰リハ吉井君ハ共ニ帰リマシタ、生産物ノ買物ノ外ニ共ニ人多ク中ヲ金銭高ニ間ハリ上ノ到リ上多ハ事ニ可改

一月七日

今日ハ土曜日ニテ天氣ハ不お変陰鬱也 食後ニハ
井上氏九ツ家ノ野ト一緒ニ赤人ノ墓ヘ行ク 古本屋ヘ行キ
赤人ノ古本ノ芭蕉ノ姉ノ記也ニ軒程沢カシ夫レヨリ
川向ヒノ古道具屋ヘ行キ一時間モ掘リテ行キテ赤ノ降
ルノニ中去ル午前也夕刻ハ加藤大使ノ宅ヘ晩餐ニ
招カレテ参リ候加藤夫人、令嬢ハ留守ニシテ令息
ハ吉井山野自動車ノ伊藤文吉ノ留四ツニテ令嬢ノ婿
候也令息ハ大使ノ大秘書ヲお独逸ニ、中々ノ悪
口屋ニテ秘書ノ益々ヲ怒ニ可カラザル勢也帰リシハ
夜ノ十二時也

一月八日

日曜也ゴルフニ行ントテ所番部迄ニ来リテ二人ニテ
像ヶ中電車ニテ行途中ニテ警ニ逢ヒ三人ニテ行テ
十一時ヨリ五時ヨリ五時ヨリゴルフヲ改シテ夕方帰リ大ニ
疲レ疲憊タヨロヒカラズ候帰途リ警ノ宅ニ招ク
行リ日ヲ分ノモノ全部ニテ大騒ニテ囲碁ヲ改シテ
成績多リ面白カラズ書君ノ呂ヲナドノ始ヲ切リ
ル由ニテ食ロノ祝ナドシテ十五時ニ辞シテ去ル小代
四人アリ伯父ヶ男子ニテ云ノ小代心臓病ニテ病身
也泳ニ薬ノ毒ニ候帰リシ後伯ニ入リテ休ニ入リシ
ハ十二時ヨリ睡リヲシタ今日ハ小代ヲ見テ家ノ
小代ヲ見男ヲシタ早ク帰リテ小代ノ騒ヲナシ
テ小代フザケテ遊ヒタリナリヲシタ

夕方

自分ハ帰郷後如何ニナルヤ未タ定マラズ世ノ
評判アルモ確定シタルコトアラズ往テ家ヲ守ル今日
ノ使ニテ美文ナレ只島郡方ヲ以テ石油
ヲ刻ス ストブノ上等ナモノヲ一箇ヲ買ヒ置キ
度事西陣カラ日本ニ帰ツタナラバ郡氏ガ宅ヲ
訪ハカノ男ノ男ノ ストウブハ日本ノ永代
ノ供物部ニ用ヒタモノ上等ハカノ島ニ去
読ミ給フ
英雄カラ西白ハイ手紙ヲ貰ヒマシタ、為ニ雄ノ
ヲ探シ白髪ハ増ツシモ去程モ変ラズ

一月十日

今日ハ孰レモ好天気第也 案内飛常ニ見受リ故ニ三十分以上散歩ニテ銀行ニ寄リ申候 銀行ニ行キテ御来ル迄モノドモ改ヒ申候 夕刻リ武内金平 吉井君ハ共ニ方道筋ニ行キ日本ニテリ立レサフラヒ見フナキニ偏敦ニテ内伴ヲ係付ケラレ中ヲ面白ロキフニ内堂ノ七時ヒ三井物産ノ様ハ支店ニ招カレテ晩餐ニ行キ鴨ノスキヤキヲ地産ニナリノ蓄音器ヲ聴キ申候 日本ノ歌ヤ浪花節等アリテ楽シミ申ス 田舎モ試ミ見ニ皆教レノ何故ニ申迄少ク弱リナリノ様ニ見ヘ申候 帰リハ水町吉井ノ三君ハ一緒ノ車ニテ帰リハ十二時也 帰ニ入テ新ニ就キ

一月十二日

今日ハ大使館ニ行キ山座君ヤ其他ノ訪問シ帰途ハ
帰邦ノ録音切符ヲ買ヒ日取ヲ
二月六日 倫敦出立、 一月曜日
二月八日 モスコー出立、 水曜日
二月十八日 ウラジヲストックニ到着 土曜日
二月二十日 敦賀到着、
敦賀到着ハ早朝ノ六時也故ニ
時刻ノ都合ニテ其夜東京到着
出来ノコトナリ其夜晩ナリ日本像車ノ夜
ノ旅行ハ外国ヲ帰リ毎日ヲ限リ
経験ハ実ニ去ルニ名古屋寄リシ
一位ニテ明日ノ日ニ帰ルヲキカ実ニモ

戸　　美軍来宣也何し童ガ

祝ッ正全部ノ地主ニテ away 行キ居候

市戸一等ノ daki 丈ケアリテ中ノ美事ノモノ也

各軍モ第五ニ市テヨロシ何ハナリ第四

ノ方ニ寄リ少ク厚ク成リ合フモノハ市戸

存在ノ日本人ノ多ク志ス日下等ノ人ニテ第六

第丈市ハ可カラズノ帰シ難ナリ時也

自分ノ像車ノ日取リ小塚ヲ一寸

苦ラセ宣ナ家ニ

好ラッ自分ノ毛皮ノ多寄ラ千代サノ様ニ

ラ買ヒ寄ラノ上ニ手拭リ買ヒ下候

一月十三日

郭軍ク吉井君ヲ訪問暫時後馬車ヲ
雇ツテ Hyde Park ヲ馳ケサセノ午更ラナガラ奇麗也併
到後 New York ノ公園ニ及ブモノニアラズ候夫レヨリ又
昔時ヲ起ビ第ニ ハイカテツド 公園ニ行キ午餐ヲ
Hotel トヤノ美料理ニ有名ナル店ニ行キ夫レヨリ二人
ニテ徐ノ夢立ニ行キノ米国ニ来リ第事ヲ初キモ
中ニ高價ノモノニ味ノ夫レヨリ Prince Restaurant トヤノ料
理屋ニテ茶ヲ飲ミ二人ニテ井山氏方ノ晩餐会ニ
行キノ日本料理ノ地也ニテ食物ノ口ハノ異味
ヲ多ク得ル事也等ヲ凡テ帰ラシリ十二時
也此日ノ毎晩十二時位ニテ眠不出也併郭カ
晩ニカヘ伝播也

一月十四日

今日ハ土曜日ニ付今日ハ学校ハ休業シテゴルフヲ楽シミ夜ハ常ノ如ク家ノ日ニテ隆東アト弥ハ朝ハ改ヨリ保保ニ参リ夕ヨリ学校ニ行キ夜帰リ帰リテ今日ハ志ニ相カレテ Halcyk ト刻帰リ帰リテ食事ヲ改シ口ヲ小野ハ相田倉事ニ出掛食事ニ茶ニ楽シ小供ノ兄ルパンヒトイフハカノ茶ニ三ツ小供二人カ他人ニ導カレテ種ニ行ク兄ハ家ノ小供ニ教師ノ世話ヲ受ケ弥ハ留ヲ入リ保母ヲ之レナ小供ヲ出来ル大ニ小供ノ為メニ向カヒ楽シ有リ

一月十五日

今朝ノ朝地キヲ出ヅ仕度ヲシテ食事ヲシテ Victoria
停車場ニ到リテゴルフニ乗リノ男ノ子部ハ留ル
所迄今日ノ多クリ移ラレキ数天気ニシテ孤ニ美事
ナル時雪ハ降カクゴルフニ第上等也朝一廻リ夕刻
ニ一廻リシ五時ニ配当ノ宅ニ行キテ食事ヲシ食後
囲碁ヲナシテ果シテ十一時五分ニ船ニ帰リ申候今ハ
和船ニ若者ニテ引ドブノ前ニテ三ノ子供ヲ書テ方
リスル時ハ毛皮ノ外雪ヲ買ヒ乗リ又高ノ土
産ノ中ニ駅ニ著ブロッチハ常市ニテハヤラ又ハ
見ヘテ器ヲ宝石風ニモ可代ヲ考ヘ当一二軒捜索
可致候横浜ニ一旦買求リ帰ル可リリ時ハ二
三日ハ土産物買ヲ奪ヒ可申

一月十六日

今日は銀行へ行ってお買物を致しやう、銀行へ参る、累、十二月三十一日ちゃんと致しやう、揃しやう、病気全快なさるのを、心配の到也、所為なる累、ところもナカニ所ノ又自分モ二月二十二日ニ、東京ニ到着所ろ心ノ掛リ使ヒ保養シテ帰京ノ節ハ市ヲ、使金ノ探ル三ヶ所今シタキモノ也此ノ所ノ買物計リニ日ヲ費シ所ノ買物ハ余リ吹強セズ、星ヲ帰ヲ千代サンヲ数ヶ所ノ日、急ノ用ニ買童ノ金都ヲ使ヒ事業シタルハ確也今夕ハ又小野君ニ頼カシヲ志ハ三人ヲ食事ヲ改シ中候、帰りしハナ姑母也

一月十七日

今日ハ又銀行ニ行ケバ買物ヲ致シ、又午後市地ヲ迷ヒテ歩ク買物ニ行キ、買物ニ時ノ経ツノト、金ノ入ルニハ朝ハ到也モ布、ミリッ、金等ヲ買ヒ、今夕八日ニ、夢ノ景象銀行ノ市地ニテ市地ノ光景夢ノ如ク千万人ノ多ク集リ大ニ手ヲ拍ク地ナリシモ第五ノ市地ニ至リ兄弟同ニハ結田金ヲ入レ出ナキ様アラズ、切ハ市ノ市ノ市ノ Cul 

一月十八日

今日より新しく又宮石屋にりきやい午後ハ
所地に一日買物に美しい候等雄の自動
車、つゝ買、ラ伊才金役所ノ方達ラ
ラ長ラ又他ノ方人ノ隠居地等にて一日ニテ
大概間に合ましラ京見屋に行き裏屋
接向又ケノ京見、三千円ハ出サゞレリ間ハス
金ラ富ヒノデ止メマシタ、其ノ代リ一ハ人見事
ノモノ也日ハ帰リテスグ〳〵接ヲ入ルヿモ
金ラ〳〵ケノテ好何〳〵ラ可ナ午大〳〵南ヒナリ
夕刻ハ帰ラ用事ヲ片ヲ京金ラ後
ノレラ異ハ古カノ小野屋ハ共〳〵今ラ事ヲシラ
十時〳〵宿〳〵帰ラ

一月十九日

今日モ新ニ買物ニ費ス筆ノ費郵便会社ノ
船ノ荷物ヲ托スルニハ今日中ニ積ミ込ムベキ由
ニテ新ニ永地ニ加勢セシメテ荷造ラシテ四カバル
四ツ木箱二ツ丈ケ造リ中候午後一時ニ旧兄君
ヲ除ク Party Bank ニテ餞ニ招カレ吉井君ハ共ニ乗
リ中候地去ハ物ナケレドモ旧ノ友人耳ニテ面白
カリ食事ヲ改シ中候共レニ船ニ行キタル刻ハ
吉井君ト共ニ古道具屋ヲ冷カシテ其レニ吉井
君ノ宿ニ行キテ夕食ノ地去ニナリテ最ク除ケシテ
帰ラシリナラ外ニ也
ソレ上ニ母ヲ書キ妹ノ愛
命ヲ焼リナシ
心モ書カラズ
ヒタ

一月二十日

今朝十二時ニテ宅ニアリテ知ル所ナク
ナリ Shaw モ招カレテ Alexander Club ニテ宴ニ行ク
Sibley ハ株仲買人ニテ日本ニ年々人ヲ招クセラレ
シノ人ニ六十才ヨリノ人ニテ娘ト共ニ日本ニ年々
由ニテ帰宅ノ上ハ多少世話ヲセサルヲ得ス三十人
カ富山日本ニ来テレテ大ニ閉口ノ到也多刻
ハ Pang Bank 社人ト Lacey Hotel ニ招キ客ニ人ノ十
七人ヨリ皆社人耳ニテ今夜位協堂たつハ出来
ニテ十時ヨリ皆協堂ニ時向ヲ立テ帰リ
日本人耳ニテ皆協堂ニ時ヨリ
社ヲ大後倫ヲ帰
人モ大喜ニ出ル
井上氏カモ来リ
帰リテ寝ニ入リ
也

好候ニナニ付ヲ
三日間ニアイルランドニ居サ居ル事ト存候

一月二十一日

朝ハ比較的早リ石ヲ出テ三十分計リ歩キ田ノナジ
リノ町ヲ見物シ四ノ辻ヲ過リ乗合馬車ノ上ニ乗ツテ
三十分計リ揺リテ銀ヲ過ギ来リ又書物屋ニ立寄
リテ書物ヲ買ヒ候夕刻ハ悔ヲ取ニ行キテ高
悔ヲ色々ノ悔ヲ三ツ計リ買ヒ下候其レヨリ又
乗合馬車ニテ石ニ帰リ二時ヨリ外ニ出ナド書
キテ水田サンノ石ヲ歩キテ来リ一七夕ハ小田サン
色々話ヲ聴ク為メニ来リ六時カラ十二時マデ居
ル話ヲ改シ下候
明ハ多島ノ方ニ出ル
書類又ヨリ外ニ来リ皆
医ヨリ来リ四月
ノ来ルヲ待ツ

田内身ニ可成早
ク来シ下候

一月二十日

日曜也 朝ノ晩ノ起キ ノ今日ハ 殊常ノ陰雨也
日ナレヤ 夜ナレヤ 更ニ判然セズ ノ先ツ 清出ツシテ
午後ニ 成ルト 根岸ノ宅ニ 参リ ノ 主人ノ 妻君ハ 帰リ
一人ニテ 只 寂シク 暮シ 居タリ 格子 窓ニ 日情 改シ
暫クシテ 吉井君モ 来リ ノ 午後 碁 囲碁シテ 暮シ
夕食モ 地 出ニナリテ 又 囲碁ヤ 始ムル 時ニ 夢シテ
ナルト 時ニ 帰リヤ 候 根岸ハ 近日 殊 体 裏弱
ニテ 夜 時ニ レ又ハヤ ナル ノ 一 緒ノ 暮シ ナリ モノガ
暮ニ 一人ニナリテ 到 何人モ 来ル 筈 他 来ル 暮
シ 待 可キモノニアラズ 不自然ノ ナリ 何人モ 必ガヤ
病 来 伝ニナル 可キ 運命也 根岸ノ ニ 尺ニ 自分
ニ 此ニ 深ク 日情 改シヤ

一月二十三日

新早義記官事モセズ自分車ニテ Euston station ニ
到リ吉井君ト暫リシテ来リ愛蘭土行ノ汽車
ニ乗ル汽野千里ノ平原ヲ過キテ午後二時し
Holyhead ニテ海峡ヲ渡リ英土ノ舟ニテ二時半
半ノアイランド海ノ Kingstown ニテ港ニ来リ英土
二十分計汽車ニテ Dublin ニテ都ニ来リテ Shelbourne
Hotel ニ投宿シ夕食後ハ吉井君ト雑話ノ後
床ニ就キ中ノ候汽車及舟ヲ以テ第三ノモノハ
実ニ今年都ノ内宮ノ開ク到ル舟ノ如キ
弥ハ堪ヘ難ク候ハシレ幸ニ風モリカル候ダブ
リンハ愛土ノ都也何レ京都ノ如キ
キ所ハ寄リ方ニ故物ノハナカシ手

一月二十四日

朝ヨリ馬車ニテ産ニテ見物ニ立寄ケノ所ハ古キ寺ニテ殆ト数百年前ノ寺ニテ候、又ギニスノビール醸造会社ヲ見申候市内ハスプレクス分園ヲ見ル、馬車ノ御若能者ノ面白キ老人ニテ大ニ楽シミ申候、午後要塞土塁ヲ御ラン被ヒ、ナノ銀行ハ旧リ市街ノ中央銀行ニテ今ハ支店ノ模様モ昔ノ城ノ部分ハ旧ノ国会議事堂ノ跡ニテ実大ナルモノニテ其レヨリ Athenée Royale ヘ、Mr Collège ヲ訪ヒノ其レヨリ石ニ帰リテ休ミ夕ヒ馬車ニ乗リ Belfast ヲ差シテ出発シノ車中ニ三時ヨリ費シタ合ヲ伺ヒ夜ノ八時ニ Belfast ニ到着致シ候、Grand Central Hotel ニ止宿ス

一月二十五日

Belfast 市

朝ノ馬車ニテ宿ヲ出テ市内ニ見物ス市ノ田 Dublin
ヲ通ル ニ 広大ナル高屋ヲ叩キ Dublin ニ京都ニ
ハ Belfast ノ名有ル也而天ニ矢来汝ニ囲
ミ白カラス市中ノ世界市ノリニ花ノ盛地ナリ
吉井氏ノ市市ノ見世ニ到リテ種々買物ヲ
所望ノ変百四以上ヲ支拂 後レ候有リ
夫費品物ニ〜午後ノ鉄道ヲ待向ニ乗
舟ヲ待ル候 当時動揺甚ハノ世界市ノ称
ニ Glasgow ニ中ニ行ヲ見物ニ行キ候 而ノ降ル
迄ノ雪ニ不情也 夫時ニ行雪ヲ踏メヲ傷
車ニ乗ヲ再ビ Dublin ニ帰ル 又為夜ノ Hotel ニ
止宿致シ候

一月二十二日

朝ハ六時半ニ Polli 来リ六ツ半ニ目ヲ覚マシテ
仕度シ朝食ヲ済マシテ八時ノ俥車ニ乗リテ
停車場ニ向フ八時半ニ Kingston ニ着ク毎ノ乗リ
ナレバ此ノ辺ニ来ルノ今日リ又トナキ上天気ニテ
日本ノ春ト及ブヲ日也停車場ニ着シタルリ五時半
ニ成ル帰リテ直ニ大使館ノ芳保ト電信ヲ
掛ケテ又ト招キヲ夕食ヲ共シ一人ノ仏蘭西
来ノ支人也外務省ノ大官ノ娘ニシテ小供三人
アリ二人ヲ日本ニ残シテ一人ヲ連リシモ心配ニナリテ遂
ニ去年ノ暮ニ日本ニ帰シタル由小供ハ一人ノ
外ハ皆居ル充分困リシモノ哀ノ男ノ帰シタル
ナレバ也俥ニ入リ床ニ就キタリ

一月二十七日

藤山氏ノ疲労ニテ新橋ヲスマシテ寝テ居ル
十時過キニ陸ノ陸ノ陸ノ焼イテシヨウ、大ル弓銀行ニ
行キマシタ、銀行ニテハ千代ガ岡山ニ帰リ居リシモ
千代サンノ幼ナ見舞リ不申、今夕ハ[illegible]ハ人ノ
家ニ招カレ居ル筈ノ所ノ人リ井上君夫婦ハ
小野君ノ出ル美人モ二三人居ル[illegible]キ
先年居ラシタリ人ノ中柳岩キモ居リ
ナリ人ノ中ニ中学校ノ教素ノ美人風ノ人ニテ
美人ハ大変ノ美美ラ中学ノ帰ラマシタリナル時過キ
ナリ、今日リ又住宅ノ所ノ行キ合ノ様ノ住ヲ決シ、
先ハカラ洋服ヲ作リニテ五百円以上住ヲ決シ大ル
閉ハ決シ

一月二十九日

今日ハ曇ニシテ十時頃マデハ夜ノ如シ暗キ日也半日石ニ腰掛シテ雪景ヲ眺ム

ケテ shawl モノ毛ヲ織ル昔ナカラノ織物ハ言ハヌ迄モ偏ニ故里ノ古典花ニ思フ感慨

殊ニ小保三姉ヲ夜ノ九時マデ待居シテ夕食ノ独坐ニナリテ帰リシハ十時ナリキ

ヒヒヒ口ニ石ニ出掛ケテ日下キヲ待ツニナリテ時マデ話シ合ヒ昔ノフリ忘レ

難ク八ノ如ク Place ヲ招キテ小野君ハ三人ニテ芝居ニ行キ芝居ハ妻君ノ

ヤキモチ ヲ高ニ離縁ハナリシ後ニ妻君カ

悔ニテ元ノ亭主ニ復リ度ト申出

一月三十日

今日ハ月曜日ニテ銀行ニ行キ其後ニ東髮ノ節ヲ買ヒニ行キタルニ古キモノ斗リニテ為方ノフニアラズ候二軒ヨリ買ヒヤーチ代ヲサヘノ条ニ入ルヤ否ヤ判然不代ラ夕刻ハ芳保ノ故居ニテ山庭吉井ノ野居ハ白稲ハヤハリ古料理屋ニ行キ少々咲ヒ過キテ閉口致シ囲碁ニテ少シ負ケ候ヨリ候土産ヲ余程買ホリ高ナレトモ到着リ見ラレ候ハヒ金ヲ不足ニナラン向山メニ改レヤ候彫ラ六時帝京ニ出ノフ改レヤ口ヲ帰ルモ遠カラサル故ニテ何タカ充キ心地致シ千代サヘ案内ニ保嵯セラレフ形リ

一月三十日

陽が、へスト情ノ由ノ報アリ日本ニ出会い
セタルニ敵艦ニテ機夜モ又潜事ニテ出
直ちに耳ノフた敵ニ船が危険モナカルヘシ
カノフニテ所出ニ仲心後シ中候根岸ノ
会社ニ行キ二時日斗リ雑談ヲ後シ中候
小塚ヲ敵艦ニテ逸ヒニ来ルカノフナレトモ是日モ
世ニ風評セシめクヲ人ノ世界ニテ余ノ無意
ノめリ信セラルルの市ニテ防害カナルフ付キ
勢リ墨ナノ日出ノ合ニテ形ち高
十中ノハ九ニテ敵艦ニテ機夜地ナリ二十日
ノ夜ッ帰京ニ来ノ事ハ存ハ敵軍ニ
図ラノ幾也

弥々六月廿三日郭公ノ声聞シ事久シ陸奥ノ国ニ十二日ノ
早朝ノ口地ニ到着ノ予定也口地マデハ千島
ヲ陸奥ヲ通ヒ口地ハシ郭公ノ声中絶シ郭公
聲ハ宮城地ニテ千代サヘハ勿論英雄モ出遊ハ
兵用ヲ又若シ時ニカ許ラナラハ直ニ東京ノ帰
レ所ノ千代サヘノ郭公ノ通ハ一切口中
止ナサレ千代サヘハ只所樹迄ニテ小供丈ケ三
人西方迄ヲ出遊ハシ郭公ノ通ヒノモノニハ
兵用ヲ金ヲ持タセ兵ヲ
帰嶋ノ上ハ二回ニ鳴ハ
何カシカシ出ケテ居レ何レカ切テ居ル
ノ事業ハ存シノ居ル者ハ出ケニシテ
自分ノ事業迄義事兵用ヲ

二月壱日

今日ハ弥ト一日郡役ニ塾五名山口ノ名ヲ来リ永地ヲ来リテ新侯ヲ伝ヲ備前ノヘヲト中ニ盛然ノ由ニ付テハ折角札ハ買ツテ之レヲ棄ツル損セシカモ或ハ米国ノカナダヲ通リテ帰ラヒカトモ考ヘテ若シ左ニシリ

倫敦 二月十日 出発

二月二十二日 バンクーバー出帆

三月八日 横浜着ス

若シ二月十二日迄ニ出帆シ
ヲ通ス 陸ニ時間ハ少シハ自ラノ思ヒ違ノ
ヒヲ即チ他

倫敦ヲ六日出発

モスコー

八日

浦塩ヘハイリ　十八日着ス、ト云ヘ

敦賀　二十日到着

東京　二十日夜九時

ヘルハノ流ノ地ヲ経テ通ズルノ必要モナク

ノ向船ノ余リ感ジタル不快ニ堪ヘカネタ

ノ方ヲ通ズセシカトモ云フ

世界ノ中ニ男ノ接ス条ヲ又モノニテ折角

苦ミ来リ又リ返シシカモ英国出ズ三十

六日ニ一夜モ泊ス山ヲ又風テノ時ニ舟

ハ陸車ノ中ニ黄ニノ陽ニ苦痛ノ至

リ也

何ヒリ明ニ決定日ニ電信ヲ以シ

拝啓 貴来申上 通り 出帆 六日 出立
二十日（月曜日）ニ 敦賀ニ 到着ノ 予定
ノ 家備 ハルビン ノ 肺ペスト ノ 日ニ 当リ
猛烈トナリ 家族ニ 鉄道ノ 模様モ
ニテ 候 明日 東京ニ 向ケ 電報ニテ 問合
ハセノ 結果 ハ 帰邦ノ 一二日ニ 早フナル
ナリ 為 金ノ 地ヲ 経テ 帰邦スル 可シトノ
通事 ハ 今 到着 致シ 居ル 高市市
出発ノ 予定ヲ 変更シテ
二月 十日 船ニテ 出発
二月 十六日 出来 カナダ 到着
直ニ 汽車ニ 乗リ 直行

二月二十二日　大平洋西岸ノバンクーバー港ニ到着

直チニエンプレス、チヤイナ号ニ乗リ

三月八日　横浜港到着、

已ニサイベリヤ経由ノつうゑ札モ買ヒ出発日モ三日後ニ迫リ行程変更ヲ決シ跡ニ残ル者ナレドモ、相当者キノ用事モナキニ、一日ニ二三百人宛モ病死シツツアリテ暗黒世界トミハシ乗ノ切ナル理ニ逼ラレ必要モ居メラノ間敢ヘナカラ右ノ通リ変更致シ申候

弥々サイベリヤ行ヲ止メカナダ經由ニテ帰ルフラ定リ已ニ一切ノ切符モ買ヒ出発い

二月十日十二時　倫敦発

五時　リバプール発

二月十六日夕刻又い　カナダノ東端セントジョン

十七日朝　トヤリ京ニ上陸

二月十七日　セントジョンニ到着汽車

特別汽車ニテバンクウバー

向ケ出発

二月二十二日　バンクウバー到着

二月二十三日　エンプレス、オブ、インチヤ号

ニテバンクウバー港出帆

三月八日　横浜到着

横浜到着ノ時間ハ未定ナリ云フい

日本郵船社員ノ方ニ内向合リセバ
好リト候
満州ノ方ハ一寸猛獰ノ由ニテ之ノ方経由
帰国ヲ見合ハセノ上ハ尤モ利巧ノ方法ナリ
シト考ヘラレ候 勿論カナダ経由ノ凡テ安全
陸ヲ北ノ方ヲ通過ス事 故宮系強ク
カナダ大陸ノ要ニテ雄モレ考ヘラレニテ都テ
シベリヤ線ヨリモ経費ノ少キ考ノ供レ之ノ
方ノ為金ニ保ス事ヲモ二国ニ日ヲ
リ日本ニ迄若干ノ為何ニ為金ニ
三月八日ノ日ノ何レ郵ニ横浜ニ到着
ノナラン天系都合ニテ皆横浜ニ
迄ヒニ来ラレ度リノ自分リ都合ニ故ニ

三月八日ニハ屋敷ヲ横濱ニ到着ノ筈ニ
付ノ日ハ家族中皆迄ノ為リ得止切ニテ
中安樹ナサレ、ハ日ハ二ハ三ニ余程喰
業ニハ居到居時居ノ都合ニテ中迄ニ
中安樹ナラ

右為ヤウ